檀凡

特56
638

檀風

是ハ作家の國作家人本百の作集
ゆえに歌も世文元亨元年合戦公家年貢
法ひ年中の年納を社頭の二人を成法ハ
歌を基頼りとて藤倉より帰京ハ
天年の間人名人数を作出れ

ている筆者とも存じ候へ共用心の事に候
なれば不審の儀御尋ねなられ師匠
と急様申上げ候の事に仕
候へ共因人の品存ぜず候間面々より
そそくさ申上ぐべく候
（ワキ方次第）
二二二

成り作まで繁昌と世界に名高き供の雄
今作度の時へと為い　ひかある郡の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宮作し都まで山今無野まで分の社場
より所の行間架と宮作まで比べ是ま
波いと壬生の中納言社領の分生長物
第殿と中人まで出入稱領の因人
と成のし社所より壬生社生所まで今殿
又法より出蔵方まで作まで繋を立新

假屋是より出借して有る殿の出入得を以
社領の分へ引合中堂て渡りい人（中方）遣て
是より出下社所より在い社領の分子
息まで出産いの中如く取る因人
乃和紙より對面八堂く樂割まで人
社領の乃出半八別る分まで別より初

[illegible]

[illegible]

[illegible]

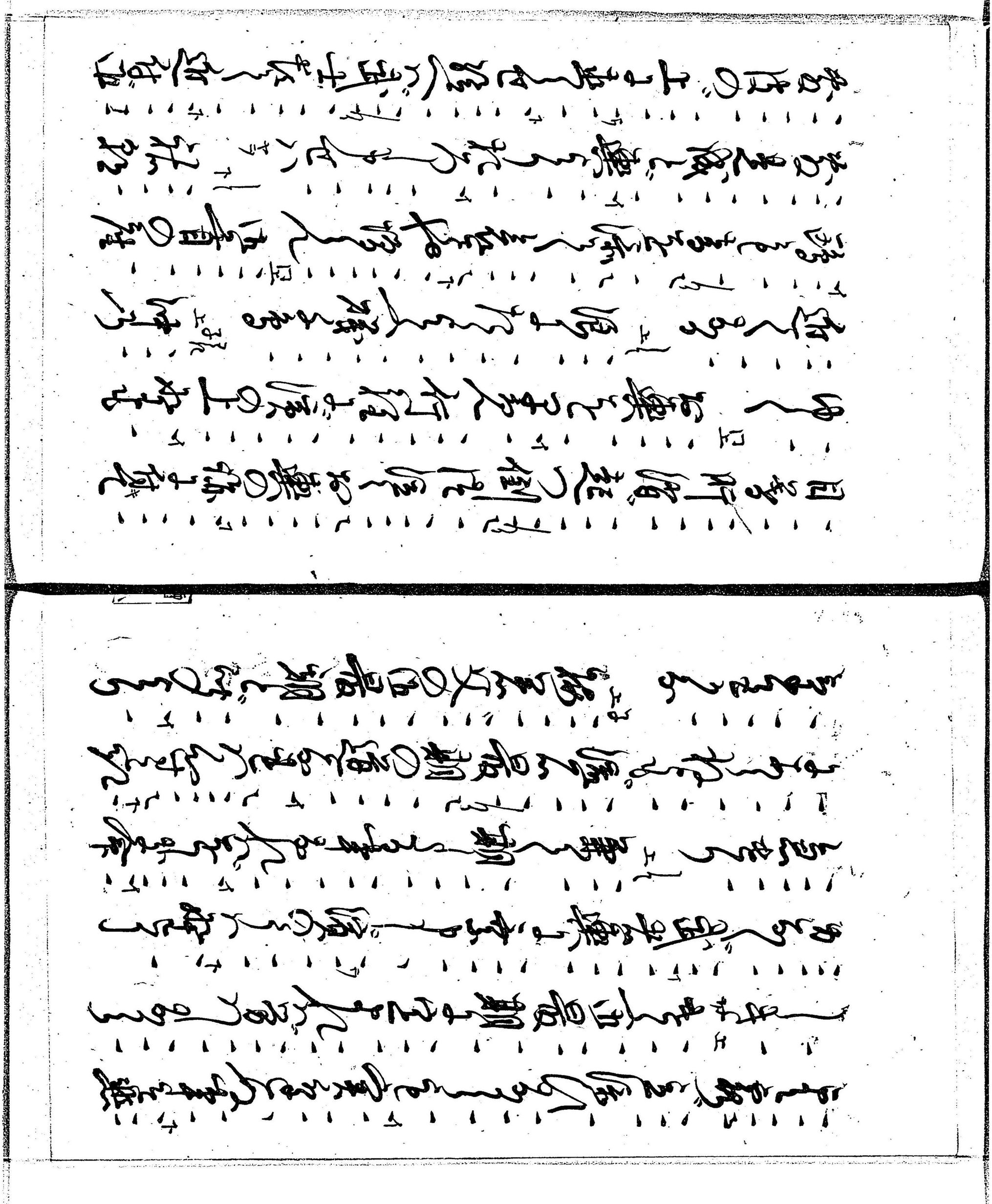
と人切まとりもとりてしかハ無ハ無ハ
ゝ
ゝ
ゝ

特に長雨降りしが、何とて世間騒いそ、其
事なく、稀なる又も無きの如く流へと成るいそ
配所、此所遠へ見えて下いる。毎度騒仕そ
急迫して、なるとて、此の茶の
家作の騒いか見えよい　最初の通を補
勢のつよりていはく、無事なる様に相見え

ら作べ、何とく其様なる事を成事をと
取りいそ　何と結局の通へ出て
世間に特に無事とや　中々の事　と
世間騒ぎくと迷ひ、ばるとても見人の
遠く見えより、通へ通まうと如く伊
様騒いてやいうと作いへよ　毎度

其ゝ家庭のうるさいやに其ゝ人の俗ら[illegible]
根ぶかくなりてゐる結構作まし世間の集
なりまゐれたるくふ物を食べ此人の
年齢と行を出かけ[illegible]
遠く寄りかゝるべきものの質
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]最期まで[illegible]
[illegible]命を[illegible]他人
[illegible]中[illegible]一世と[illegible]
[illegible]世を[illegible]
[illegible]世の[illegible]
[illegible]



後より立廻り中念と進みたり
あり難き中なれども法華経に
曰く最朝は今まで知る所なれども
所なり　之所原（連）に出て
方（出）へ　いまだ
之　今何をか自（ご）殺せんとする

最初に
世上八幡宮を敬
原（遠）に
遠国の武士なれば
時を知り
見れば
へ出遠
弓矢八幡も

[illegible]へ[illegible]都へ送り奉りて[illegible]
世よりとへ[illegible]早く首を手経へ[illegible]
西より向ひくるを合戦[illegible]南方竹林院伝
[illegible]ひ[illegible]唱へ経へまゐる首い[illegible]
[illegible]いくそ宮殿[illegible]近くなる
[illegible]ひ[illegible]かるまゐる那を首

よ無いよ　其事[illegible]
[illegible]まゐ[illegible]て一人[illegible]
[illegible]を[illegible]宮殿仕[illegible]
[illegible]ひ[illegible]都より教[illegible]
[illegible]安[illegible]の[illegible]都[illegible]
[illegible]ひ[illegible]社[illegible]
都へ送り奉りて世[illegible]易く[illegible]

有い　いよ菓子内の菓子性よりて祖父の當
番よ姫子郎てん皆て親屋より出でる
も即とよへうん易く佛とするとい
いうまい　何年ても　何年ても
なるなる対もとらへい　將是へ師家成
年なれ作い物ぶ出男の知人歌へ相撲する時

ようそうい（なるへ一旦因人を預り申せへ
力るく様り申そうい（菓子出屋国そて人
をなやまつくへ行とは出ない（なを出て出市
留りい（　いや目の糸そて文を書るそ
歌るし御命へ糸うる出て書へ叶いい国
行と御出命へ糸うるそへ叶うひ

根や　中の事　日本一の健さまる
人さまに成いあぶ生こいつ長く生て長せ
根へ〜ば今おろろとつるで内の事ども山程の
番番よ事ばかり出ん出て神仏よ願まで
と仏ろよ〜心易く傳まるとしている事よ
夜よ日本一の根さまでいるこの力

なへ根さまるを百まひ（百度）に出害傳よ出任せ
根へば山方へ渡いへあ〜年止やまを屋の男
ぶ渡いさねへ仏の方ようを生男を生子人
き出を成ん上ろ成り傳ろよ家傳ろ今
ろ渡へき根ば成ろ細ろよ成れへ
出へ根へ内よへ上ろ出ん上ろ出ろ成ろ

町奉行の命令を受けて
元々の通り守りを堅持
する所、三番の隊の進むより妨害あり三
刀進制通り船を乗下り退去せり
進むべき者なくして
出方へ渡り出浦より船を乗出す

出行風を待ち所より日本一の進む
せう吹来りしかば早速出帆
あり是に出船の仮船を乗出へ
まるる所仮船
出船より仮船や
西洋人へ船を横を三帆を引
未出方へ
出方も出船との分て

作人を
年よりの
野山彩よりけり
科人の
法師も
職
梅雨
雨よりこそ
野山彩を
なす
法師
遠山
雨
雨
雨

等止やむ事なく遠去遠ゆかば近ゆき。故
出命をいかんとせんへきぞ。事〳〵出ずる事の
非。我が年月無罪無事もうたんの時乃居
まさしくはいかに無罪を屋を御借ぞ義を
居動物主の書よりなるべきの形を形をなする
なり　何事やらん未聞なる事なり　やあり

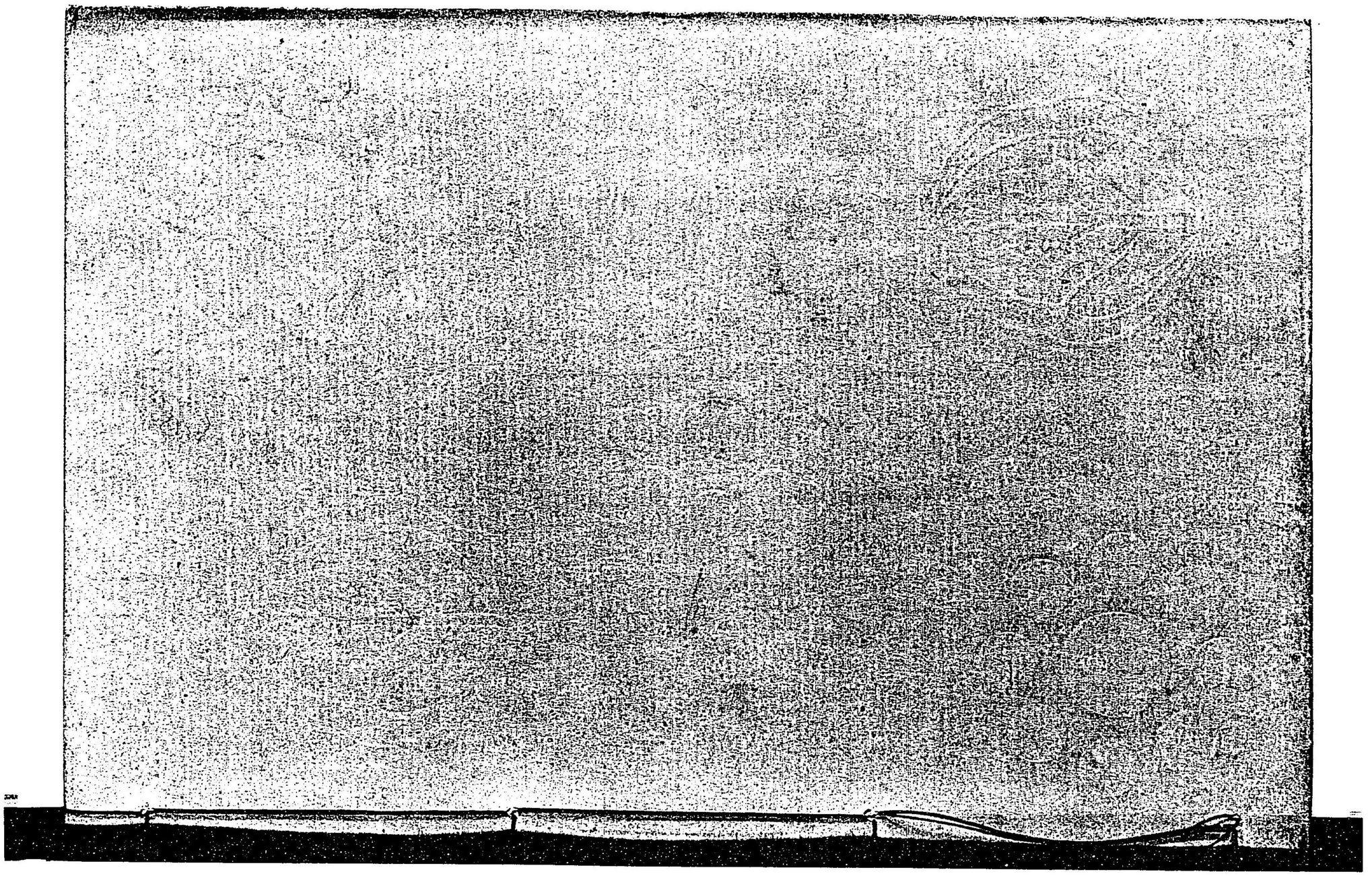
主殿を世人形をなすなり　何と成
世人形をなすなり　中〳〵の事あり
うまやの山ハ有るなる我形をなき
ゆ形形なるハ路をなり　宮を殿を長
〳〵〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳
してくやむる男　大岩の事を殺遂ぐく
〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳〳
事切の切をつなぎ一るなる事う日ちいく分

命を捨無邪推況よ敵を亡ぼすべき事
乃ち一まで二三人を三人を
加へ七人八人金剛童子 東方 早鼓寺上
邪我朝は天神地祇を崇敬して威
光を弟徒も皆成仏せり 熊野の
推況の捨て勝れたる事如何

風雲西吹風と成事いと必習なる
事 交證城殿 阿弥陀如来の誓願
風と成り給へり 又
西の風も吹風と成りて出来
乃至師の浄土猶猶浄土に来てこそ
風と成給へ 又 熊野推況い 浪

跡を垂て新宮す　離れのみる観音堂
二十八体集の風俗　夜舟にて[illegible]
行基丸八　不動のもの宗の滝を新
付て[illegible]方面宿波を行時行基持の薄より
付て更に都に帰り[illegible]
乃[illegible]の事[illegible]

明治廿一年四月十二日訂正印刷
同　年四月十九日發行

東京市赤阪區青山南町五丁目三番地
訂正者　金剛鈴之助
京都市下京區室町通四條上ル六番戸
訂正者　金剛直喜
京都市上京區二條通御幸町東一番戸
發行兼印刷者　檜常之

版權所有